

尾道郷心会

— 会員様の笑顔をつくりたい —

KYOSHINKAI
ONOMICHI

No.58

尾道郷心会設立30周年企画
「潮風に吹かれて……尾道界限」
文責：写真家・村上宏治
「尾道と広島商品コラボフォトコンテスト」
開催のご案内

会員様ご紹介
尾道造船株式会社
代表取締役重務 造船所所長
村上一男様

活動報告

「令和5年度尾道郷心会運営総会」
「マツダ車企業展示会・出張展示会」
「会員交流イベントカープ観戦」

ディーラーのご案内

アンフィニ広島 東尾道店
広島マツダ 尾道山波店

尾道郷心会30周年企画

文責：写真家 村上宏治
(村上アーカイブス代表)

「潮風に吹かれて……尾道界限」 第1回(全3回)

所用で安芸太田町加計に取材で入りました。予定より早く終わったので町を散策していたら、「木炭自動車とレトロ車館」という案内板に惹かれ尋ねてみました。そこに展示されていた車は、マツダのマツダT2000。というよりは正確かどうかは別にして私にとっては「ボタンコ」でした。その懐かしさに近寄ってみると、姉弟でしょうか、私がカメラを向けるも気が付きません。車内の二人は楽しそうに何やら会話を続けます。固定されたハンドルを回すしぐさに、計器を見るしぐ



さ……いつの間にやら、私は半世紀程前の自分の姿を重ねていました。私の生まれは尾道市向島町。昭和40年頃の向島の秋は、家族と親戚総出のミカンの収穫。狭い狭いミカン畑の山を縫うようにして走るボタンコは農家の救世主。小さい兄と私は手伝いと言っても役には立てず、それを口実にミカンの積み込みを待つボタンコが最高の遊び場。今日はどこへ行くかと、兄弟二人の視線の先は、ボタンコのフロントガラス。その先に見える風景は二人にとって、昨夜



昭和40年頃の尾道公営渡船の様子。撮影：故・土本壽美

見たウルトラマンや、鉄腕アトムの同様の映画やアニメの世界です。計器類を触っては、ミサイルのボタンであったり、光線銃のボタンだったり、マツダT2000の顔が鉄人28号に見えることから、二人はいつしかボタンコ28号と呼んでは、見えない悪役との決闘のシーンを想像し、二人ではしゃいでいました。いつも運転席は決まって兄。あのハンドルを自分のものにしたくなあ〜と思いつつも兄には言えなかった。子供にとって、ボタンコは広い車内。タイムマシンに乗った気分、未来に行けたし、宇宙に

も、漫画の中にも、テレビの中にも行けました。なんで自分が子供のなかと早く大人になりたい。自分の宇宙船でもあり、タイムマシンでもある車が欲しいと真剣に悩んでいました。当時の向島は道が狭く、まだ舗装道路も完璧ではなく、荷物を満載したボタンコが行き交います。でこぼこ道に差し掛かるとスピードを落としてゆくりと通過します。三輪なので路面によつては転倒するのではないかと心配になる程に左右に揺れます。それがまた滑稽でボタンコが来るのを待っていました。まだ尾道大橋はなく、尾道と向島を結ぶフェリーが大切な生活の足でした。ボタンコが船から桟橋に移動すると、船の浮力で大きく上下します。それも楽しみでわざとボタンコが船に乗るタイミングを見計らって乗っては楽しんでいました。いつしか免許を手にし、何とか自分の車を所有。初めて乗車したときに触れたハンドル。目の前のフロントガラスはやはり、映画のスクリーンであり、達成感に安堵した記憶がありました。きつと目の前に楽しそうに会話する姉弟のフロントガラスの先には、いろいろな空想と未来が見えているのでしょうか。あの日の私たちのように……

尾道郷心会30周年企画

『尾道&広島商品コラボ
フォトコンテスト』開催！

「広島にゆかりのある商品やモノ」を、尾道の色々な場所で見つけて下さい！お土産物や食べ物だけでなく、船やマツダ車も広島県産の商品です。審査員には、尾道を代表する写真家 村上宏治先生をお迎えしました。尾道郷心会設立30周年にちなみ賞品総額30万円の記念企画です！ふるつてご参加をお待ちしております！

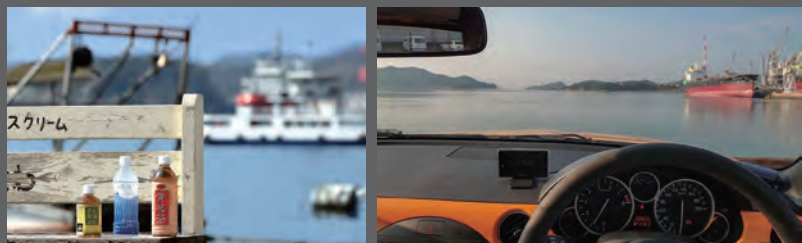
■応募締め切り
令和5年11月10日(金)

■参加対象…制限なし
(会員以外のごなたでもOK！)
■応募内容…尾道の風景を背景に、尾道市の産物など、広島県産品(広島商品の魅力が伝わる作品を募集します。(お一人様5点まで)
■表彰…グランプリ作品10万円相当(5万円の商品券+5万円分の尾道商品)その他、準グランプリ・優秀賞・村上宏治賞など9作品を表彰します。
■結果発表…令和5年12月頃。郷心会HP他にてお知らせいたします。



審査員・村上宏治
プロフィール

1959年生。尾道市向島町出身。1978年・1992年上京。写真家・秋山庄太郎氏に師事。独立。尾道に帰郷後、郷里に拠点を構え、広告写真を手掛けながら、瀬戸内海の自然美や、仏教美術をライフワークとして活動を開始し現在に至る。公職…尾道市文化財保護委員・尾道ユネスコ協会事務局長



【尾道郷心会活動報告(展示会&カープ応援)】
「会員交流イベント
カープ応援」
「マツダ車企業展示会
(出張展示会)」

6月25日(日)マツダスタジアムで読売ジャイアンツ戦を観戦しました。「声出し応援が出来るってやっぱり最高！」「こんな良い席は自分では取れないので嬉しい！」快晴の中のカープの勝利に、参加の皆さんの笑顔も弾けました。

長引いていた新型コロナウイルスの影響もようやく落ち着きこの春からマツダ車の企業展示会に積極的なご協力くださる企業様が増えました。大勢の従業員の皆様に、最新マツダ車の魅力を見て頂く機会となりました。今期すでに5会員様で開催されております。(横浜ゴム(株)尾道工場・三和鉄構建設(株)・向島ドック(株)・尾道造船(株)・プレス工業(株)(以上敬称略)) またマツダ車はお近くのショールームにていつでも御覧いただく事ができます。



マツダ株式会社 URL



村上アーカイブス URL

「ショールームでお待ちしております」

アンフィニ広島 東尾道店

尾道市東尾道19-19
TEL (0848) 461-3500
営業時間 9時〜18時
定休日 毎週火曜・第2水曜日

広島マツダ 尾道山波店

尾道市山波町20-1
TEL (0848) 461-0211
通常営業時間 ショールーム(9時〜19時)
サービス受付 9時〜18時/定休日 火曜日



広島マツダ
尾道山波店様 URL



アンフィニ広島
東尾道店様 URL

発行：尾道郷心会／尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル内

TEL (0848) 22-9369 e-mail: onokyo@mazda.co.jp

撮影・制作：村上アーカイブス 担当：麻生祥代 aso@ermjp.com



会員様の笑顔をつくりたい
—尾道郷心会—



尾道郷心会 URL

【尾道郷心会・会員様紹介】

尾道造船株式会社

代表取締役専務 造船所所長

村上 一男 様

日本の造船業の強み
「これでもかーという
”安全な船”を作る。」

「生まれも育ちも岩子島で小さい頃から船も身近な存在でしたが、この会社に入社して初めて、尾道でこんなに大きな船を造っているのか！と知ったんですよ」と明らかに語られる村上専務様。

「技術は数年では身に付かないから」そ長年勤めて欲しい。そのために地元密着の企業としての責任を持つて社員とその家族を守っていきたいんです。」
長らく造船業の世界トップシェアを占めて来た日本ですが、2000年頃以降の韓国や中国の造船業への進出の勢いはとどまることを知りません。

機械では出来ない
”職人の経験と技術”

一枚の鉄板が一隻の巨大な船になる行程は、工場の西側から東側に順次繰り広げられていきます。

巨大な船体を見上げると、目に飛びこんで来るのは一枚の鉄板の中に含まれる「3次元の曲げ」。妖艶にさえるそのラインは巨大なプレス機でなされるものではなく、ロボット技術がこれだけ発展した現代でも「経験ある職人の技術」によってしか生み出されないという現実には驚かされるばかりです。

曲げや溶接といった細かな作業の中で造られたいくつものブロックがクレーンで運ばれ巨大な船として組み上げられる工程は壮観です。



【撓鉄ぎょうてつ】船体となる厚鋼板の表面に、加熱と冷却を加えることで生じる熱膨張と収縮による力を利用して、3次元の曲げを実現します。撓鉄は、経験を積んだ人の手によってしか成し得ない、素晴らしい職人技です。各フレーム毎に木型をセットし、加熱と冷却作業を繰り返し行うことで船体を形成していきます。



「正直、技術的なことだけで言えば、日本の方が優れているとはもう言えないんです。しかし、人命と大切な荷物を運ぶ船です。これでもかーという位に安全に安全を重ねた船を送り出す。その精神は日本の造船業界では死守されています。」その力強く答えられました。



アフターコロナで世界的に人の流れや物流も大きく動き始めました。世界的な脱炭素問題への取り組みなど、グローバル経済と密接にリンクした造船業界には課題も山積みです。「現実的には、エネルギー効率、CO2の排出量の少なさという点では重油を使う船の内燃機関に勝るものではありません。しかし水素エンジンや代替え燃料の開発なども無視できない課題です。現実的なToda's bestと未来を見据えてやっていきます。」

大海原を渡り世界とつながる船。そんな「モノ造り」の世界が尾道の町にあること。それを地元の子供さん達にも小さな頃から身近に感じて欲しい。これまでも一般の方が参加できた進水式だけでなく、工場見学会の機会も増やして行かれるそうです！ぜひ、風景の一部として眺めていた船が生まれる光景を体験して下さい。きつとこれまでとは違った広い世界が見えてくるはずですよ。



家族でご愛用のロードスターの隣で「目立つんでちょっと照れくさいです」とはにかむ村上専務様。真っ赤なボディに赤いホイールを選ばれたのは大のクルマ好きの方のアドバイスによるもの。奇しくも新造船の船体の赤と黒のカラーリングがリンクしています！マツダの設計図もX軸をWL（ウォーターライン）と呼ぶなど、戦前から日本を代表する広島造船業の影響が色濃く残っています。

年間約7隻の新造船を生み出す造船所

皆さんはご存知でしたか？
尾道のある瀬戸内地域は世界の造船関連の製造業のなんと1／6が集まっているのです。造船所だけでなく船舶工業事業者が集まり、相互に産業活動を繰り広げている「海都市尾道」。国道2号線に面した大きな屋根の下で、どんなことが繰り広げられているのでしょうか？

世界各国のお客様の船を建造している尾道造船さん。受注から引渡しまで1隻につき2〜3年、最近では年間約7隻の新造船を生み出されています。



写真右…進水式の様子。
写真下…進水式のあと、
「艦装（ぎそう）」という工程に入ります。艦装とは、就航に必要な種々の装備を船に施すため、船体を岸壁に係留して作業を行うことです。



尾道郷心会活動報告

【令和5年度 尾道郷心会通常総会開催】

7/6(木)尾道国際ホテルにて2019年以来4年ぶりに尾道郷心会通常総会が開催され、総会・講演会・交流会にのべ90名の方々にご参加頂きました。杉原毅会長が議長として総会を進め、令和4年度の活動報告・収支報告と今期の活動予定・予算・役員改選の3つの議案について承認頂くことが出来ました。斎藤茂樹氏(マツダ株商品開発本部主査)による講演会に熱心に耳を傾けて頂きました。交流会では、河上典子さん(FMおのみちパーソナリティ)による司会で、カーブ観戦チケットや会員様豪華賞品詰め合わせセットの抽選会などが和やかに行われました。会員同士が、久しぶりの直接顔を合わせての交流を楽しまれ、会場は、郷心会活動の応援をして頂くあたたかな雰囲気になりました。



安全祈願を、
ご神木に込めて

造船所構内の一角にあった、広島県の天然記念物のうばめ榎(通称バベの木)があつた場所は今でも神域とされています。総合事務所側へ移植したバベの木は現在もご神木として大切に守られており、安全祈願の象徴として尾造の皆さんに大切に守られ青々とした葉を茂らせています。安全に対する強い気持ち、常に皆さんの根底にあるのです。

